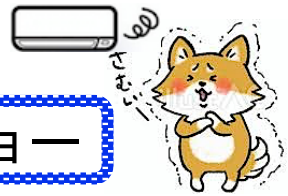
脳・神経センター・　リハビリテーションセンター

長崎北病院 伝言板 2月号

令和8年2月1日発行

2月。寒い日が続きます。院長室、看護部長室、医師室などがある管理棟はずっとエアコン故障中。冷蔵庫状態です。各自が温熱ベストを着込み、温風暖房機、デロンギヒーターなどを持ち込んで凌いでいます。春よ、来い、早く来い。切実な声が聞かれます。夕方の明るさ、蝋梅、梅一輪、くしゃみ（花粉飛んでます）には早春の気配を感じます。でも気温は真冬。しばらくは我慢の日々が続きます。早くエアコン直して。



あしたが変わるトリセツショー

部屋の中なのに凍えます。古い製品なので部品が揃わないということで管理棟のエアコン修理は遅々として進まず。寒さに耐えながらの勤務が続きます。「壊れたのが管理棟でよかったですね。昨年の大学病院のように病室のエアコンが壊れたら大変でしたよ」との事務長の弁。「俺たちは凍えてもいいのかい。急いで直す気は無いらしい」とぼやいています。春になって暖かくなったら「もう大丈夫でしょう、エアコンは要りませんね」となりそう。そのまま夏突入かもしれません。

昨年12月6日に当院に「パーキンソン・神経難病センター」を設立しました。新聞やネットニュースなどに取り上げられました。おかげでたくさんのお問い合わせ、ご紹介などをいただいております。ありがたいことです。名前負けしないように、さらに中身の充実に頑張ります。ところで、先日のNHKの全国放送の「あしたが変わるトリセツショー」に北病院が出ているのに気付きました？

1月22日に放送された「あなたの「しびれ」はどれ?解消&予防SP」の後半です。長崎大学保健学科の助教の理学療法士の先生が新しいシビレの治療法、治療機器の研究をされています。

当院にも毎週来ていただいて臨床応用しています。その縁で当院のリハビリ室を使って治療風景の撮影が行われました。東京からNHKのディレクターや撮影クルーが来ての収録でした。残念ながら北病院の名前は出ていませんので気づいた人は少ないと思いますが、当院のリハ室をご存知のかたは「あれっ！」と思ったかもしれません。司会の石原さとみさんは来られてはいませんので悪しからず。リハビリテーションも進化して行きます。同じことをやっているだけでは遅れます。新しい理論、テクニック、治療機器などを取り入れて進化していくことが必要です。ロボットリハビリテーションなどの開発、治験など新しいことに今後とも積極的に取り組んでいきたいと思います。でも当院の外観なども撮影していたのに映らず、私への出演依頼もなく。残念でした(^_^;)



医療の世界は日進月歩。昔の常識、今の非常識ということも多々あります。新しいことを吸収し追いかけていかないと化石の医療になってしまします。若い方は新しい知識を持って加わってきます。頭も柔らかい。年齢を重ねると経験値は増えますが、意識しないと新しい知識から遅れます。医療の世界では年齢は関係ない。1人の専門職です。新しいことに取り組めるか、新しいことを始める人を応援できるか。「昔はね」は邪魔にしかならない。江戸時代の儒学者「佐藤一斎」が綴った「言志四録」に、『少にして学べば、即ち壮にして為すことあり。壮にして学べば、即ち老いて衰えず。老いて学べば、即ち死して朽ちず』という言葉があります。子供のころにしっかりと勉強しておけば、大人になってから重要な仕事をすることが出来る。大人になってからも学び続ければ、老年になってもその力は衰えることがない。老年になってなお学ぶことをやめなければ、死んだ後も社会への役立ちは次代へ引き継がれていく。一言で言えば「学は一生の大事」や「人は学ぶことをやめた時、衰え朽ち始める」ということでしょうか。学ぶことはいつ始めても遅くはない。何にでも興味を持って始めてみましょう。（でも始めるにはエネルギーがいるのよ 😅 ）（A.S.）

